

昭和二十年十月

日記帳

一部六年
乙葉裕子

蔵部

綴

殊

通

昭和九年度

係務課長

官大記左スルニ関シ
出付候見覽ニ付テ
御通報

長課書秘
長課務總

十月十三日 土曜日

朝から雨が降ったりやんだりして、はつきりしないお
大氣だ。行軍は中止になった。お書の御飯が出来
てゐるので、お辨當だけつめておいた。午前中授業
ないので、お家へお手紙を書いた。久しぶりに封筒
を出せるので、いろいろな事を澤山書いた。學校に通
つてお書はお辨當なのでとてもうれしい。學校に通
つた頃の事を思ひ出しながら楽しく書いた。だいた
午後は圖書館の二階で自習をした。

今日もなんだか危しいお天氣だ。午前中みぞれ
新運びをした。ちやう度雨が止んでおたのでよかつたか
あと思った。二束つつ西尾寮へ運んだ。

午後は圖書館の二階で本を読んだり
編物をしたりした。雨はあひ變ら
降ったり止んだりしてゐる。

夕食の時、突然有賀先生がこの學校をおやめにな



と聞いてびっくりした。思へば、去年の十月四日、雨のしとしと降る久米川の疎開學園にいらっしやうでから一年餘り。楽しい事もつらい事も、先生といふものに、元氣よくやって来たのに、今お別れしなくてはならないと思ふと、なんだか胸がはりやけるやうな氣持でいっぱいだった。どうぞ、お体を大切になさって、お仕事におはげみになりますように。

十月十四日 日曜日

久しぶりに、朝からかりりとしたよいお天氣だ。早起きして、お洗濯をした。

今日は蛇谷にまで行軍だ。お辨當を持って出發した。澄々とした青空。とても氣持がよい。途中二年女子の影近さんのお家により、取りたての柿をあげやうと

だいた。とてもおいしかった。秋らしい味だった。そこから山道をどんどん登って行った。登って行くにしたがって、木々の葉は茂り、しんせんな空氣が、

そこいら中にただよって来る。もうあと少しで蛇谷といふ所で、とうとう雨が降り出した。あんな

によいお天氣だったのに。岩の下でちよつと雨やど

りをしてゐるうちに、直ぐやんでしまった。

小矢部川の一番上流にある橋のそばで、お辨當をいただき、歸途についていた。

寮へ歸って、お風呂に入り、ゆっくり寝た。

十月十五日 月曜日

今日は休養日。朝食後順番に床屋さんへ行った。

私は一番最後なので、その間お洗濯をした。みんな揃って川のふちでお洗濯をするのは、とても楽し

い。髪をかってしまったので、頭がすうすうする。

食の時、笠井さんのお兄様が、お家からの荷物を持って来て下さった。とても大きい。寮へ歸ってあけると、綿入れの着物や、下駄、新聞紙等が入っていた。とてもうれしかった。お母様方は、いつも私の事、思つてゐて下さつてゐるのだ。御心配かけないやうに

十月十六日 火曜日

日元氣に、ほかうかに暮して行かう。久しぶりに、神社の境内で、朝の体操をした。とても

氣持がよい。心ははれはれとして、今日も一日ほかうに、はつらつと暮せるやうな氣がした。

午前中六年は大根のまびきをした。みんなになつてゐるかと思ひながら行つて見ると、どうでせう。

お百姓さんにくらべものになんない。はつかしいなあ。午後は明日の娛樂會の猛練習をした。

十月十七日 水曜日

とてもよいお天氣だ。八時半かつ、楽しい娛樂會に。私達の寶の笠は五番目。張り切つてやった。次から次へと、おもしろい物ばかり、最後は、堀先生の、第三回

七藏物語。冬の時のおもしろいお話だった。私達も冬になったら、スキーをしたりするのだ。早く雪が

降らないかなあ。

午後は、お裁縫室で、窓からさし込む日の光をあひながら、日記を書いたり本を續んだりした。とても

氣持がよくて、眠つてしまひやうだ。今日の神嘗祭は、とてもよい日だった。

十月十八日 木曜日

今日は休養日。朝食後小矢部川の中州でお洗濯



午前中普通通り授業だった。午後、小矢部川の中州でお洗濯をした。
 小さなお魚が澤山ゐる。東京では、川
 でお洗濯など出来ない。ほんたうに
 楽しいお洗濯場だ。そのあとで、
 みんなで、土手で日向ぼっこをした。
 うららかな春の日のやうな感じだ。
 私達の前をかにが柿の種を持ってある
 いてる。猿かに合戦でも始りやうだ。ちやう度柿
 も赤くなつてゐる。おとぎの國へでも来たやう
 だ。この日の日記は、大へんよく書けた。




十月二十五日 木曜日

今日は休養日。午前中は圖書館で自筆した。高田先生が、お家へお歸りになった。早く歸っていらしやるといいなあ。

平後は昏なで、お人形さんを作
 からなまでに毛糸で作った。とてもおでぶちゃん
 で、今の時局にはあはない。私はちよっこを編

んであつた
十月二十六日



オデブの
今日、楽しい運動会。す
こし曇ってゐたが、この位の
雲は吹き飛ばす元気で、
次々と

はりきつてやつた。人費かりたいの。一生懸

終つて行く。健競走は四人二十一

命走ったが、一番ひりになつた。それから、




とてもおもしろい。最後に時
間があまったので、みんなで色
合戦をした。久しぶりに思ひ
きり運動したので、からだが
かるくなったやうな氣がして、と
ても元氣が出た。この元氣で、これからの生活を續けて行
かう。

十月二十七日
土曜日

うれしいうれしい野行軍。立野原までして出發した。久しぶりに立野原へ來て見ると、畠ばかり・訓練所も、立野農場となつてゐた。廣い立野原へ來ると、ごろりと横になつたいくらゐ。私達は、たき木拾ひに行つた。秋なので、枯木がたゞさん落ちてゐた。手にいっぱい持つて歸つて來

ると、山口先生が、一生懸命おみえしるを作つていらつた。出来るまで、みんなたき火をかこんで、先生が苦勞して買つて来て下さつた柿をおいしくい

たにいた。暖いおみそじるとお辨當で
楽しいお晝食をすませてから、みんな
で三種鬼をした。廣く野原。美し



い山々、心もはれ水とする。大なる
廣い心で、楽しい三種鬼をした。赤か
勝ったのでとてもうれし。終つてから
なごり惜しい。

原を後に、元氣よく歸つた。最
今日は一日楽しい愉快な日だ。さういふ
あつた。

十月二十八日
日曜日

今日は休養日。雲つないとてもよいお天気だ。北陸はめづらしいお天気ださうだ。午前中、六年女子すいぎの及むきをした。外の日のあたる所でやった。



しんまいなのでなかなかうまくむけない。手があくで真っ黒だ。

午後は寮へ歸つて髪洗ひをした。お手紙が三通も来てみたのでとてもうれしかった。私の大好きな本。出発の手紙はまで読んでみた。火星兵團を送ると書いてあった。早く送って来るといいなあ。

十月二十九日 月曜日

今日は城端の夜まで行軍だ。昨日に引きつづき、とてもよいお天気だ。この間から運動をよくするのでとても元気が出た。愉快な気持ちで、秋の美しい景色にみとれながら、一本道を歩いて行った。一里も歩いたかと思ふと、もう城端の町へ来てしまった。両側は家がずらりと、スキ間なくたてあて、まるで東京の様なところだ。ところどころに、わけのわからぬ英語が書いてある。やつと目的地。城端の別院に着いた。まだ時間が早いので、お寺の方に、お寺の手を御案内していただいた。日光の東照宮に似た所があちこちに見られた。百いくつかのお部屋をみると、けり見せていただいた。このお寺には今まで常盤松国民學校の生徒さんが疎開してゐたのださうだ。お家のちが戦災でなくなつてひき取り人のない生徒さんが三人ゐるさうだ。かはいさうだなあ。こんな人々にくらべたら、私達とは、どんなに幸福だかわからない。日の當る所でおいしいお辨當をいただいてから、立野原を通つて、元氣よく歸った。夕食の時高田先生が歸つていらしたのでとてもうれしかった。

十月三十日 火曜日

午前中六年は、大根のまびきと、追肥をした。

畠へ行つて見ると、この間よりずおぶん大きくなつてゐたので、とてもうれしかった。でもまだまだお百姓さんのとは比べものにならない。

まびきをしてから、葉にかけをしたら、今度は、肥料をかけてみるかしら。楽しんだ。大きいのが出来ました。

十月三十一日 水曜日

久しぶりに桑山へ行軍だ。お辨當を持つて、足と軽い桑山へ向つた。どの山々も、木々が紅葉してとても美しい。桑山も、この前登つた時と、ずおぶん變つてゐた。つるりつるりする足をふみめ、山登つた頂上へ着いた時は、まだ十時半だった。下を見おろすと、私達の出發した福光村とても小さく見えた。まるで箱庭のやうだ。毛虫のやうな汽車が、白い煙を吐いて、小栗川の前を通つて行く。入道は米粒のやうだ。私達の通つて来た道が、白くはつと見え、十一時になつてから、秋の礪波平野を見おろしながら、楽しくお辨當をいただいた。歸りは雨がぽつぽつ降り出したので急ぎ足で歸つた。とても楽しい一日だった。



い、日記の、濃淡ある日の生活の印象の、とてもよく
あけのぼる、絵の、なう、と、暗の、明の、い、ま、い、な、る、の、
す、日、に、あ、る、ま、い、れ、く、思、ひ、ま、す、

十一月一日 木曜日

もう十一月になってしまった。早いなあ。この一月も、
明かると、元気に暮して行かう。午前中二部六年は
東太美村の農業會へ野菜の配給を取りに行った。
雨あがりなので、道が悪い。高田先生が、科擧の、
ことについて、いろいろお話をして下さった。私達は、
も、と、く、勉強をしないで、はならないと思つた。

十一月二日 金曜日

朝から雨降りだ。一時間目の理科の時間に阿久沢
先生が、お家へお歸りになった時の御様子、いろいろ
ろと、く、は、しくお話して下さった。進駐軍の、のんき
な生活の裏、子供達の様子をおもしろくかたて
下さった。最後に、日本の國は山紫水明の國だから
武力では買けたが文化では必ず勝つとおっしゃった。
私はほんたうにさうだと思つた。

十一月三日 土曜日

お首飾に、明治節。朝から、とてもよいお天気
だ。久しぶりに校服を来ると、うれしいうな
楽しいやうな氣持で、一ぱいだ。学校の中庭
には、けだかい、美しい菊の花が、今日の明治節
を祝ひながら、うれしそうに咲いて
ゐた。「秋の空澄み菊の香高き」
ほんたうに歌のとほりだと思つた。



祝 明 治 節



拜賀式は、九時から講堂で行はれた。
式が終つてから、寮へ歸つて、冬物
を出した。十一月にゐる物だけだ
して、あとは、又この次出す事にし
た。
夕食の時は、黒板の面白い繪を前
にし、先生方のお心づくしの、ごちさ
うを、楽しんでいた。とてき
おもしろかった。

十一月四日 日曜日

今日は先生方が庄川のどむを
見にいらつしたの、梅達は、興助先生とお留
守番だ。午前中は、廣瀬村の若島神社まで行軍をし
た。美しい山々をながめながら、田んぼ道を楽しくお話
しながら歩いた。向ふに見える日本ヤルプ入は、もう雪
をかぶつてゐて、真白だ。あ、もうすぐ、この福光も、
真白になるのだなあ。
午後は川原へ、めなうといふ石を探しに行ったが、
途中で雨が降つて来て、止まったので、お氣遣ひ室で、
先生にいろいろおもしろいお話を聞きました。

十一月五日 月曜日

庄川へいらつした先生方は、六時半頃歸つていらつし
た。お風呂へ入つて、庄川の事をいろいろお話して下さ
た。私も行って見たとなあと思つた。
朝から雨降り。いやな雨だなあ。ほんたうにいつに
なつたら晴れるのだらう。
三日目の授業をした。理科の時間は算數がおくられて、
たので、算數をした。算數は一番大切なから、今の

うちにしつかりやっておかないと、や学校へ入ってからは、なにもわからなくなってしまう。と先生がおっしゃった。一生懸命やって行かうと思った。

十一月六日 火曜日

今日も、朝からぱつぱりしないお天気だ。国史の時間に、やがてこの所を終った。いよいよこの次からのびゆく日だ。明治の維新に入るのだ。だんだんと昭和御代は近づいて来たのでも、いろいろな事がある。国史が教もろくなかった。急に好きになっちゃった。一生懸命にやらうと思った。午後は、すしとお裁縫をした。だんだんお出立して行くので、とてもうれしい。この次の時間が待ち遠しくてたまらない。

十一月七日 水曜日

今日も雨。おまらないなあ。一時間目の算数は、大急行でやると、巻七を終った。これから巻八に入る。だんだんおくれた物だ。あと思った。午後は、編物をしながら、みんなで、いろいろな話をした。とても楽しい午後だった。

十一月八日 木曜日

いよいよ立冬だ。寒さに負けず頑張らう。朝学校へ行く時、いよものやうに醫王山を見ると、真白な花が送られてくる。雪が降ったのだ。冬が来たのだなあ、とつくづく思った。

午前中五年以上は新運びだ。私達三部六年は、高田先生と西尾寮で、薪の整理をした。今日の薪は、なま木なので、とても重い。車がくると

急いで外に飛び出し、車の薪を倉庫に運んだ。みんなほがらかに、元氣よくやった。とても楽しい作業だ。

午後は英霊迎へに行きた。とても寒い。福光驛まで来ると、とうとう散が降りだした。みんな、散々、とて喜んで、とてもうれしかった。

十一月九日 金曜日

久しぶりに、とてもよいお天気だ。休養日だったが、急に變つて、大根運びをする事になった。お辨當を持ち、すぐ傘をかぶって行った。雨あがりなので、道がとても悪い。その上、歩き方が早いので、景色等ながめてみるところではなかった。立野原を通過して、や、高い丘のやうなところまで来た。ここでお辨當だ。外でお辨當をいただくのも、又かくべつだ。お食事かすんでから、お大根を十本位づつ持って神社へ向った。背中にしよって行った。後から見ると、大根のおぼけみだ。私達の植えた大根も、こんなに入まらなかったらいいなあと思った。

十一月十日 土曜日



今日は休養日だ。朝食後五年以上のサ子は、西尾寮で、ずみぎの皮むきををした。この間やった時よりは、うまくむけるやうになった。人数が多いので、すぐにすんでしまった。それから寮へ歸ってお洗濯をした。とても澤山あるので、急いでやった。川の水はとても冷



たい。冬になったら、どんなだらう。

午後は寮へ歸つて日記を書いた。二三日ためてしまった。昨日書くひまがあったのに、書かなかったのだ。悪い事をしてしまったと思った。これから、決して、ためないで書かうと思った。

十一月十一日 日曜日

今日は全校運動だったが、先生方のごつごうで、五年以上の女子は、又ずみきの皮むきをした。今日の日は、まだ新しいので、とてもむきににくかった。十時頃から高田先生の弟さんがいらつしゃつてゐた。いっしょにお話して見たかったが、はつかしくて出来なかった。又、今度いらつしゃるさうだ。

三時頃から髪洗ひをした。とても氣持よくなった。

十一月十二日 月曜日

朝からとても寒い。今日は、一時間目だけで、あとは全部自習だった。何もする事がないので、三橋さんのセーターをあまらせていただいた。自分のセーターがあんでみたいなあと思った。

夜、歸る時、高田先生に怪談をもていただいた。

とてもおもしろかった。

十一月十三日 火曜日

とてもよいお天気だ。外へ出ると、しもがおりてゐた。楽しい疎開生活をした久米川を思ひだす。

午前中寮ごと、どこかへ行く事になった。

私達は高田先生の寄宿のお話をお聞きしながら、田んぼ道をおひんぼした。水たまりを見ると、薄氷が張つてゐた。ほんたうに冬が來るのだなあ。歸りに、私達の植えた大根を見に

いった。ずいぶん大きくなってゐたが、まだ親指位だった。それから寮へ歸つて洗濯をした。今日はきつとよくかばくだらうい。すんでから、みんなで神社の境内でなはとびをした。久しぶりでとてもおもしろかった。

十一月十四日 水曜日

朝からどんよりと曇つてゐて、とても寒い。主事先生があれは雪雲だとおっしゃった。もう雪が降るのかしらと思った。

晝食後、炊事場の大掃除のお手傳ひをした。

ゴミを捨てに行ったり、いろいろな道具を運んだりした。とてもきれいになった。それから寮へ歸つて毛布にくるまって、日記を書いたり、編物をしたりした。

十一月十五日 木曜日

目がさめると、雨が降つてゐた。一時間目低学年から体重測定をした。私はふえたのでとてもうれしかった。もっとく、体を丈夫にしようと思つた。算数の時間に考査があった。一つまちがへてしまった。算数は一番大切だ。とこの間先生がおっしゃった事を思ひだし、もっとしっかり勉強しなくてはならないと思った。午後は、名簿順にとこ屋さんへ行った。急に



頭が軽くなった。やうな気がした。とてもさっぱりした。

十一月十六日 金曜日

昨日にひき續いて、雨降りだ。今日は圖書館の二階がふさがつてゐるので、下のお部屋で授業をした。

午後はお裁縫室で、明日の娛樂會の練習をした。

十一月十七日 土曜日

午後から、楽しい娛樂會。本田寮は二年生と六年といつしやなめてとても愉快だった。

私達の塩井川は、一番最後だった。今日の娛樂會はみんなおもしろいばかりだった。終つてから都と田舎といふ題で、討論會をした。始めてなので、なんもいへなかつた。こんな事で、第一日本をせおつて立てるものか。と自分で自分をしかつた。

夕食前、本田寮へあんかと、やぐらを取りに行った。みんなでいしよにあたる日が楽しみだ。

十一月十八日 日曜日

久しぶりによいお天気だ。六日目の授業をした。午後お裁縫室で習習をしてゐると大島さんのお母様がいらつしやつた。さうして、大島さんは、二三日お家へおかへりになる事になった。人でもゐないといふともさみしい。早く歸つていらつしやるといいなあと思つた。夕食後寮へ歸ると、お火鉢に暖

かやうな火が入つてゐた。みんなで楽しくあつてゐる時、並木先生が、今度おやめになる

十一月十九日 月曜日 晴

朝からとてもよいお天気だ。

今日は休養日なので寮へ歸つてお洗濯をした。川の氷が冷たいので、手がかじかんでしまふ。冬になつたらもっともつとつらいたらうと思つた。ほんたうにお母様の御苦勞がしみじみとわかる。

午後、福光驛まで、大島さんの荷物を取りに行つた。驛には金福自動車がつまつてゐた。ああ、こゝで、石田先生や前田先生を送りしたのだなあ。こんな事はみんな夢のやうになつてしまつたのだ。

十一月二十日 火曜日

今日もお天気なので、小侯といふところまで行軍をする事になった。雲一つないとても氣持のよいお天気だ。心をはすませながら、元氣よく山を登つた。目的地についた。ああ、きれいだ。とたんには、氷の口からも感動の言葉が出た。遠くの方には、眞白な北アルプスの山々がどしりとかまへ、その前には、さばん目も様のやうに、鴈沼平野の田が續いてゐた。まるで繪のやうだ。それから寮ごとに、鳥



山や、石切場を見に行った。國語で石の山をお習ひした事が、ほんたうにはつきりわかった。そこでお辨當をいただいて歸った。

今日並木先生がお歸りになるので私達はお見送りをした。汽車が行ってしまふと、急にさみしくなってしまう。今度並木先生とお命ひする時はどんなだらう。

十一月二十日 水曜日

午前中六年は大根の追肥をした。お大根は、とてもふとってゐた。追肥をするのも、今日で終だ。今度来る時は、どの位ふとってゐるかしら。楽しみだなあ。

午後寮へ歸ってからみんなこたつに入つて、ランプをして遊んだ。久しぶりにランプをして、とてもおもしろかった。夕食後大島さんが歸つていらつしやったので、急にぎやかになつた。

十一月二十一日 木曜日

朝からすこし曇つてゐて、今にも雨が降りだしやうなお天気だ。一日目の授業をした。今日は自習ばかりだ。五年生や四年生が、山田村まで配給ものを取りに行つて下つたが、あまり人数が少ないので、私達もお手傳ひをした。

福光校は、今日は農業祭ださうだ。

十一月二十三日 金曜日

今日は新嘗祭だ。

午前中五年女子は、昨日の大根の葉の

理をした。三部六年も一緒に手傳つて下つた。と續んであつた作業もたちまちなくなつてしまった。んな事は、ほんたうに楽しい思ひ出になる事だらう。午後三部六年が寮へ遊びに来た。本を讀んだり、話をしたりして、楽しく午後を過ごした。

十一月二十四日 土曜日

今日はまだ一回も行つた事のない井波といふ所へ行軍をする事になつた。高瀬神社でお辨當をいただいてから、堤防づたいに、井波へ向つた。



別院の屋根がとてもよく見えるが、なかなか遠い。大拂をみかけて遠まゝ野かな。まったくこの俳句と同じだと思つた。井波の町はとてもきれいな町だ。やっと別院に着いた。とても大きなお寺だ。お寺の後には、高い山が突立つてゐる。

今にも、たはれて來さうだ。宮地先生が、このお寺について、いろいろお話をして下つた。歸りがおそくなるので、お寺を後に出發した。久しぶりに遠くまで行つたのでずおぶんつかれた。

十一月二十五日 日曜日

今日は休養日だ。

寮へ歸つて日記を書いてゐると、吉田さんのお母様が面會にいらつしやつた。家のお母様がとても元氣だと聞いて安心した。朝からとても寒いので、

こたつに入って遊んだ。

十一月二十六日 月曜日

午前中六年は、山田村まで、大根を取りに行った。とても澤山ある。車三臺に積んで、みんな引っぱって来た。私は一番先頭で、つなを引っぱって行った。坂を上る時はとてもたいへんだが、下る時は、車に追はれるやうだ。よいしよしかいよしかけ聲をかけて引っぱって来た。とても愉快な作業だった。



十一月二十七日 火曜日

三日目の授業だ。算数の時間、考査があった。百点だったので、とてもうれしかった。早速お家へお手紙を出した。これからもしっかり勉強しようと思った。**あまたわ、先もあの時、わうたんひりや。**

午後寮へ歸って、娯楽會の練習をした。

十一月二十八日 水曜日

とても寒い。普通通り授業。算数はいよいよ八巻に入った。新しい本に入ると、氣持もなんとなく新しくなつたやうな氣がする。六年の最後だ。新しい氣持でしっかりやうて行かうと思つた。

十一月二十九日 木曜日

今日は開校記念日だ。學校が出来てから七十一

週年。

久しぶりにとってもよいお天氣なので寮に歸ってお洗濯をした。今日は井戸水でした。川の水にくらべるとお湯のやうだ。ゆすぎは、高田先生が川の水でして下さった。ほんたうに有がたい。この御恩は一生忘れる事は出来ない。お洗濯がすんでから、みんな一列に並んで日向ぼっこをした。久米川の疎開學園を思ひ出しながら。

十一月三十日 金曜日

いよいよ十一月も終りだ。月日のたつのはほんたうに早いものだ。朝からどんよりと曇つてゐて、とうとう雨が降りだした。とても寒い。午後寮へ歸つて三時まで勉強した。これから毎日、三時まで**眠**學時間になった。

十二月一日 土曜日

午前中普通通り授業だった。久しぶりに石田先生の地理があつた。教科書が使へないので、先生が**食糧**事情の事についてお話して下さいました。午後は、山田村まで大根を取りに行った。今日は、この間よりずっと少ないので、車二臺でたりた。歸り急ぎに曇つて来て、雨が降り出してしまったので大急ぎで歸つた。

十二月二日 日曜日

今日は休養日だ。とても寒い。朝からみぞれが降る

てゐる。私達の登った坂本峠も雪がつもてゐた。
午前中は、寒くなつたので、冬ものを出した。
外を見ると、櫻の花びらのやうな雪が、ちらち
らちらく降つてゐた。ほんたうにもう冬だ。
早く雪がつもるといいなあ。

十二月三日 月曜日

昨日の寒さはどこへやら。今日はからりとしたよい
お天気だ。まわりの山々は眞白。朝の光が反射
してとても美しい。昨日のうちにすっかり冬景
色になつてしまつた。

午後寮へ歸る時、見かけた事のなれ自動車
が来た。ちよつと見ると、昇の高い、目の青いア
メリカ人が乗つてゐる。私のきうざうりてゐた

アメリカ人はもつときみの悪いアメリカ人だ。今日見て
あんがいだなあと思つた。

久し振りに氣持のすうきりなよい日記を拜見し、
また將來の日記とて残さる事をせう。まゐり
よく感じた事は、うともといふ言葉が多いことだ。
特徴も毎日の要領よくつめてゐるのに感心したよ。
實に内容美しい主軸なりだと思ひます。これも
読ませようね

十二月四日 火曜日

今日も又雨だ。それに、風もすぬぶん強い。風の音
を聞くだけでも、体がぞくぞくして来る。空もどん
よりとしてゐて、雪でも降り出しさうなお天気だ。
午後寮へ歸つてから須田さんに靴下を編んであ
げた。私の弟に編んであげるやうな氣持だつた。
須田さんも大喜びなのでうれしくて、たまらなかつ

十二月五日 水曜日

朝起きると、間もなく高田先生はお家へお歸
りになつた。私は班長なのだから、責任をもつ
てしつかりお留守居をしようと思つた。

午後は、先生がいらっしゃらないので、圖書館で
自習をした。をぢさんが火鉢に火をいれて下さつたの
でみんなであつた。をぢさんのおかげで私
達はふるべないですんだ。ほんたうにやさしい
いいをぢさんだ。

高田先生のお留守の間山に先生が、私達の寮へいら
しゃる事になつた。

十二月六日 木曜日

久し振りによいお天気だ。午前中は普通通り授
業だつた。

午後は五六年男子と、二部六年は、吉江村まで、
大根を取りに行つた。とても近い。車に積みされ
なかつたので、私達は、十本位づつかついで歸つた。

十二月七日 金曜日

朝のうちには、さっぱりした氣持のよいお天気だつた
が、お晝頃になつて、雲が出て来てとうとう雨が降
り出してしまつた。

体操の時間興助先生が、風の中の子供といふお
もしろい本を讀んで下さつた。

十二月八日 土曜日

今日は十二月八日。私達の忘れられない日だ。

昭和十六年の今日は、一億が米英撃滅めたわけぜん
たつて旗を揚げたのだ。それから四年たった今日
は、不幸にも敗戦に終って、さの様な情態となった。
ほんたうに私達の力がたりなかったのだ。

これから新日本を、リッパに作りあげて行かなく
てはならない。

夜高田先生が歸つていらしゃった。みんな大立
びでおむかへした。

十二月九日 日曜日

朝からちらちらと雪が降ってゐる。今日は、野
村さんのお父様がわざわざいらしゃって狂言を見
せて下さるのだ。十時からなので、それまで、
いろいろ用意をした。お客様もずいぶんいらし
た。狂言は、私達のよく知ってゐる末廣がリ
から始つた。二番目はぶすといふのだった。る
すのうちにお砂糖をなめるおもしろい狂言だ。
三番目も、四番目もおもしろいばかり。みなお
腹をかかへて笑った。

十二月十日 日曜日

朝のうち晴れてゐたが、風がひどく、しだいに

曇つて来て、霰が降りだした。

この次の國史の時間考査があるので、寮へ歸
て勉強した。

十二月十一日 火曜日

朝から雪降りだ。今日休もらないかなあ。
圖書館のちがさんが、火鉢に火を入れて下さった。とて
も暖かい。

午後寮へ歸つてから、みんなでさつたつにへっでいろ
ろ楽しくお話しした。

十二月十二日 水曜日

目がさめると、雪がつもつてゐる。飛び上つて喜ん
だ。特ちに待つてゐた雪が、つもつたのだ。

長靴をはいて、雪の上を飛ひながら、
學校へ向つた。靴の跡、下駄の跡、自轉
車の跡が、白い雪の上に

はっきりしてゐる。
ふりかへてみると
私の足跡も並んでつゐてゐた。

午前中圖書館で授業をした。

十二月十三日 木曜日

午前中晴れてゐたので、みんなで校庭のポプラ
の木をはかりに行った。昨日、雲でかくれてゐた山
も、真白な姿をして立ってゐた。ポプラの木は、二十
メートルほどあった。

午後地理のお帳面を出すので、せりりをしてお
いた。

十二月十四日

金曜日



今日は朝から、高田先生は縣廳へいらつしてゐる。すなわち猿田先生が来て下さった。一時間目は、食糧運搬のお手傳ひをした。圖書館は、てんらん會があつて、この二三日使へないので、寮へ歸つて自習をした。私は、圖書の宿題をした。コンパスでも、様を書くのだ。これで今學期のお點がつくので、いねいにやった。

十二月十五日 土曜日

今日も雪降りだ。朝食後体量測定をした。今月も又ふえた。うれしくてたまらない。もっともつと身を丈夫にして、お父様お母様、先生方に御心配をかけないやうにしよう。

十二月十六日 日曜日

朝食後体練教室で久しぶりに体操をした。かけ足をしたり体操をしたりした。最後にみんな綱引きをした。つりなはのつななので、とても短い。四組にわかれてやった。よいしょよいしょ。力いっぱい引っぱったので汗が出て来た。みんなの顔が赤くなつてゐた。愉快な綱引きだった。そのあとで展覽會を見に行った。

十二月十七日 月曜日

いよいよ國史の考査だ。心をおちつけて考査。終つてから好む見て下さった。私は優だった。うれし

い。考査がすんだのでほつとした。先生が歸つていらつしたので

みんな大喜びだ。福袋はどうなるかしら。

十二月十八日 火曜日



目がさめると、雪がつもつてゐた。學校へ行くと、石丸先生が歸つていらつしたと聞いてびっくりした。東京へ歸るまでおあひ出来ないと思つてゐた。岩丸先生が歸つていらつしたなんて、夢のやうだ。相變つてもお元氣だった。これから、又いよいよ生活して行かれるのだ。うれしいなあ。御心配かけないやうにしよう。一時間目西尾寮から薪を一束つづ運んだ。

十二月十九日 水曜日

午前中二部六年の長靴を持ってゐる人は、石田先生といつしよに東太美までおいもを取りに入った。どこを見ても、廣々とした銀世界だ。目がちらちらする。東太美の方へ来ると、ずるずる雪が深い。やぐらざぐらといふみんなの足音だけが聞える。とても静かだ。目的地につくと、もう十二時になつてしまつた。



そこで千柿をいただぎ元氣よく歸って行った。歸りとはとても近いやうに思へた。

夕食の時、午前中私達の手で運んで来たおもちが入ってゐた。自分達で運んで来たのだと思ふとかく別おもしろい。

十二月二十日 木曜日

午前中五六年は作業だ。西尾寮の倉庫の大根の冬の用意だ。長靴をはいてゐる人は、食糧管理團から、もみがらを運んだ。たはらうばい入れて、えづつ運んだ。長靴をはいてゐる人は、昨日も作業をしたので、もみがらを運ぶだけでよい事になった。

私は圖書館で自習をしてゐた。

十二月二十日 金曜日

今日は大根抜き作業だ。午前中雨が降って来た午後後やめた。どの位になつてゐるか楽しみだ。勇んで

畠へ行った。葉をとり、第一本目を抜いてみた。――直徑三厘位の太根が、私の手にぶら

さがつてゐる。でもいゝはよくても、今までの

苦勞を思ふと、なんとなくうれしい。手がつ

わたいがあまんして、元氣よく抜いて行つた。ず

るぶん澤山あった。

十二月二十日 土曜日

午前中普通通り授業だった。

午後學校からお湯を持て来て、寮でお洗濯をした。ずつとしなかつたので、ずるぶんたまってゐた。洗ひ終

てから高田先生が川の水でゆすいで下さつた。思

ただけでもそつとするやうな冷い水で、私達のために

やつて下さつた。有がたいなあ。この御恩は一生忘れられない。

十二月二十日 日曜日

今日は皇太子殿下御誕辰の日だ。それから又私達の忘れてはならない日だ。去年の今日皇太子陛下が私達に御歌をくだされた日だ。あれから、もう一年もたつたのだ。早いなあ。

今日は朝から先生が火星兵團を讀んで下さつた。おこたに入つてお裁縫をしながらお聞きした。夕食は、私達でさめた、私達の忘年會だった。暖かいおつゆの中には、私達の手で作つたお大根が入つてゐた。

十二月二十日 月曜日

朝から雪降りた。今日

は圖書館の二階が使へ

ないのでお裁縫室で

授業をした。寒いので

みんな火鉢にかいり

ついてゐる。午後名簿の後から順に床屋さんに行

た。もうすぐお正月だ。頭は、もうすっかりお正月の用

意は出来た。みんなそろってきれいな頭でお正月を

迎へるのだ。うれしなあ。

おきりてゐます。言葉もさうしきれいにきかぬが、こ

申し、おきりてゐます。言葉もさうしきれいにきかぬが、こ

申し、おきりてゐます。言葉もさうしきれいにきかぬが、こ

申し、おきりてゐます。言葉もさうしきれいにきかぬが、こ

申し、おきりてゐます。言葉もさうしきれいにきかぬが、こ



十二月二十五日 火曜日

今朝目がさめると、ガラス戸のガラスにけつしよう

が出来てゐた。ずるぶん寒いのだなあと、思った。

今日は大正天皇祭なので、授業はなかった。午前

中、七理さんといしよにお洗濯をした。

午後は図書館の一般閲覧室で、本を續んだりした。ストーブがへってゐて、暖かいが、あまりおると頭がぼつとしてしまふ。

十二月二十六日 水曜日

久しぶりによいお天気だ。四時間目に、作業用前掛けをかへしてゐた。名前の横に、きれいに出来た。と書いてあったのでうれしかった。身もこれに来て、お母様のお手傳ひが出来る日が早く来ると思つた。午後は寮へ歸つて、圖土の宿題をした。

十二月二十七日 木曜日

今日で第二学期の授業も終りだ。地理と國語の考查があった。

午後寮へ歸つて、圖土の宿題が出来上らせた。夕方、ふと空を見ると、久しぶりにきれいな夕やけがしてゐた。明日も又お天気になるとうれしなあ。

十二月二十八日 金曜日

昨日あんなに夕やけがしてゐたのに、今日は、朝から霰が降つてゐる。

午前中先生方は、成績會議があるので、私達は図書館で自習をしてゐた。

夕食後寮へ歸ると、京都から小包が来てゐた。胸をわくわくさせながら、開けて見た。中には、暖かさうなセーター、かはいらしい封筒などが入つてゐた。うれしくてたまらない。このセーターはお

正月に着る事にきめた。

十二月二十九日 土曜日

今朝學校へ行く時、ひ葉さんは全優よ。と先生がおっしゃった。あまりのうれしさに言葉が出な

かった。この事を早くお家の人に知らせたかった。さうしたらお母様も、お父様もどんなに喜んで下さる事か。全優にならなくてはだめよ。といふお姉様の言葉、心ひ出される。三学期は、もっとくがんばらうと思つた。

午前中、図書館で自習をした。階下は暖かいが、人が澤山ゐて、勉強が出来ないので、一人で二階へ行つて勉強をした。とても静かだ。べったんべったん。といふ音が時々聞えて来る。あゝ今日はお餅つきなのだ。

十二月三十日 日曜日

目がさめると、昨日の雪はまだ降り續いてゐる。

もう一尺ほど、積つてゐた。午前中は図書館で自習をした。午後体操教室で羽根つきをして遊んだ。何回もノノノノ

やつてゐるうちにだんだん續くやうになつた。さうして最後には、三百八十

ぴよんぴよん飛びながら図書館へ行って、みんなにしらせた。みんなびっくりしてゐた。

十二月三十一日

今日でもう昭和二十年も最後だ。此年は一年中楽しい疎開生活だった。ヤッとして、又、八月十五日のやうなお祭りもない日であつた年だ。昭和二十年と入れば私達に



とて忘れられない年だ。

午前中は、大掃除をした。今年のごみは、全部はらって、新しいきもちで、いいお正月を迎えるのだ。

午後一月一日 火曜日

目がさめると、もう昭和二十一年の光が、部屋中に満ち満ちてゐた。新しい氣持で又、この一年も、はりきって、毎日／＼を暮して行かう。

まだ外は薄暗い。顔を洗ひ、あらたまった氣持で八幡様へお参りに行つた。まだ足あと一つついてゐない、眞白な道を、雪をけちらしながら行つた。あたりはじいんとして、八幡様のおおかりが「ぼー」と見える。もんつきをきいてゐる人、はかまをはいてゐる人など、希望にみちた昭和二十一年の新しい年を、祝ひながら、八幡様におまゐりしてゐた。「はち／＼はち／＼」相手は、あたりの静けさを破って遠くまで響き渡つた。なんともいへないかうがうれし／＼だった。

一月二日 水曜日

午前中寮へ歸つてお書初めをした。題は自由

なので新日本建設と書いた。

午後三部六年の遊びに來た。ほり／＼たつたに入れてあげたら、とても喜んでゐた。みんな、福袋の事などお話ししてゐると、楽しい午後は、すぐ終つてしまった。

敏を

夕食後いつも先生が歌つてくださったので、今日は私達で歌つた。さされた人から順々にやつた。私は、お父様におそはした高砂をやつた。とて

一月三日 木曜日

今日は、待ちに待つた娛樂會だ。

午前中は休養なので、娛樂會の練習をした。一時半からいよいよ始つた。今日は先生方も、おやりになつた。



楽しい／＼福つりだ。

小さい方から順々につた。

何が當るかと思ひながら、／＼さほを持つた。ドン／＼と太鼓が

なる。いき／＼よくあげると、／＼筒が／＼つた。

なかをあけると、行きは二人で歸りは一人おぼけが出た。

／＼／＼。とかいてあつた。なにかと思つたら往復はがきだつた。とてもうれしかった。

楽しい／＼福つりだつた。

一月四日 金曜日

いよいよ今日から第三學期だ。一生懸命勉強しようと思つた。

夕食後寮へ歸つて、みんな

で福袋をあけた。胸をわく

わくさせながらあけてみた。

／＼／＼うれし／＼。／＼／＼かんし

などと大さわぎ。／＼かんし

てゆ。もう／＼やくしてゐる。

くだものやお菓子など、お



うれしくもたまらない。時間のたつのもわす
れてしまふ位。

一月五日

土曜日

今日は先生方のごつがうで、休養日になった。私達
は寮へ歸つて、福袋に入つてみたおもちをやいたり、
みかんを食べたりした。お母様が心をこめて作っ
て下さったので、とてもおいしい。あまり私達がた
べるので、先生はびっくりしていらつしやうした。自分で
も、おどろくほどだ。

夕食後 阿久澤先生が遊びにいらつしやうした。

一月六日

日曜日

待ちに待った追羽大會だ。きつと優勝して見せる
ぞと、朝からはりきつてゐた。男もいっしょなので
とても愉快だ。一通り練習してからいよいよ
しあみをした。私は七理さんとなつた。去年も七理
さんとやつて、負けたので、今年こそと思つて
がんばつた。勝つた。うれしくてもたまらない。
途中まですると、急に警防團の方が講堂を
お使ひになる事になつたので、このつぎの日曜日
にのびた。

一月七日

月曜日

今日は七草だ。午前中は二日目の授業をした。
國語の時間末廣がりをした。娯樂會で時
かくれ笠をやつた時、ふしをつけてやつたので、す
せがついて、すぐふしをつけて讀みさうになる

しまふ。

夕食後、高田先生が圖書館で講座をなさるの
で、私達は寮へ歸つて先生がりっぱに出来るやうお
祈りしてゐた。

一月八日 火曜日

今日はいつもより暖かゞ朝のうちとてもよいお天氣
だった。午前中普通通り授業。午後寮へ歸ると、
雨がホッポツ降りだした。明日位雪が降り出すで
せうと先生がおつしやうした。寮へ歸つてからみんな
福袋のおもちをこたいでやいて食べた。

一月九日 水曜日

二時間目の國史の時間は、宮地先生が、神話の事
について、お話をして下さつた。神といふのは、
聖徳太子のいらつしやうした頃、國民が天皇をうやまはな
いので、作られたものらしいとおつしやうした。さうして、
今までの國史は、独善主義で、日本は神の國だ
といひ、事實をまげでかいてあるのだ。今戦争に
負けて、日本は今さらながら、外國より文學のお
くれてゐる國だとなつたのだ。これからの日本は、
明治天皇の五箇條の御誓文のもとになつて行かなく
てはならないと思つた。

一月十日 木曜日

四時間目の綴方の時間は、雪の福光といふ題で、綴
方を書いた。もう二度とあぢけへない雪國の冬を
しつかりとくらしして行かうと思つた。
午後細田さんに英語のかるたをおかりして、み
んなでやつた。なかなかとれない。でも英語がず

おもしろいので、なん
回もめった。

一月十一日 金曜日

午前中授業。午後は七理さん
田島さんとお洗濯をした。お湯
が少ないうで水をたして三人でわ
かした。生木なので、なかくも
えない。けむくて、涙をぼろ
ぼろ流しながらたいた。毎日、私達の御飯をた
下さるをばさんの御苦勞がしみじみわかる。ほ
だうに感謝しなくてはならないと思った。



一月十二日 土曜日

今日は休養日だ。午前中図書館にみた。私は、
細田さんの英語の袋を縫った。かはいい、袋が
出来た。午後は、図書館の三階で、棟方先生の
お話があるので、私達だけで寮へ歸った。夕食前
図書館のお掃除をしてゐると、丁度お話が終
たらしく、ガラスと戸があいて、棟方先生が出て
いらした。おもしろいから、かうをして、大きな
聲で歌を歌ひながら、外へ出ていらした。私
は、それを見て、朗らかな方だなあと思った。あの
やうな、明かるい氣持と心で、毎日くを過して行
たら、どんなに楽しい事だらう。

一月十三日 日曜日

うでをみかいて待つてみた。追羽大會だ。かるい体
操をしたあとで、この間と同じようにして、續を
やうた。この間七理さんに勝つて今日は、堀越さ
んとだ。一生懸命やったが、とうとうまけて、

また。追羽大會のあとで、レコードコンサートがあ
るはずだったが、電休日で出来ないのので、新運
びをした。西尾寮のそりをあかりして、そりで
運んだ。そりを使ふのは、生まれて始めてだ。
なかなか上手に行かない。あちへ曲ったり、こち
へまがったり、へびのやうだ。でも、とてもよくす
べるのでおもしろくてたまらない。ほんたうに
そりは便利だと思った。

一月十四日 月曜日

四時間目の理科の時間は、阿久澤先生が野口英
世のお話をして下さった。聞いてみるとかはいさう
でかはいさうで、涙が出て来さうだ。いくら人に
きこられても一生懸命勉強をした、野口英世さん
はお手本にして行かうと思つた。
午後は七理さんとしよにお洗濯をした。

一月十五日 火曜日

楽しみにしてゐた体重測定だ。一キロも肥
えてゐたのでとてもうれしかった。お寮へ歸る
ときまでに、丈夫なからだを作らう。
午後は、娛樂會の練習をした。

一月十六日 水曜日

もう娛樂會は明日にせまつてゐる。夕食後
寮へ歸つて一生懸命練習した。が、なかなか
よく出来ないの、もうやるのがいやになつて
しまった。他の人は、もう寝てしまつたし、これか
らかへようと思つても出来ない。考へて見れば、
私達が、ちつとも考へないで高田先生になにもか

おまかせしてしまつたのだ。こんな事で、どうして新日本をせきってたてるものか。ほんたうに私達かわるいのだと思つてつくづく思った。ぶやだかふといつてやめたら、みんなが、どんな氣持になるだらう。私は、そんな心配しながら寝てゐるみんなの方を見た。さうして、ためいきばかりつくのだった。

一月十七日 木曜日。

いよいよ娛樂會だ。出来るだけの力をだし、やってみようと思つた。今日はお裁縫室は校長會で使へないので、音楽室でやつた。私は運は六番目だ。一生懸命やつたら出来たので、とてもうれしかった。な。んでもやれば出来るのだと思つた。今日の娛樂會は歌が多かつた。最後の三部六年の、各氣な父さんは、愉快なげきだった。

一月十八日 金曜日



雪國の冬で、一番樂しみにしてゐたのは、スキーだ。そのスキーを、いよいよ今日するのだ。うれしくて、朝から心かはづむ。一番始め、石田先生にお話をお聞きしてからうをぬいた。まだ二人に一臺づつしかないの、で、七理さんと一しよにぬいて、高田先生にの

はしていただいた。それかすんでから、いよいよスキーをつけて、外をあるくのだ。なかなか思ふやうにあるけな、ちよと足はすすと、すぐこしのへんまでずくと入つてしまふ。あつちでも、こちでもスキーといふ聲がする。生まれて初めてのスキー。とても樂しかった。

一月十九日 土曜日

今日は普通通り授業だった。今日からお裁縫はガラスだ。型紙取りをやつた。早く縫ひたいなあと思つた。午後は、圖書館の火鉢にあたつて、みんなでいろいろおもしろいお話をした。

一月二十日 日曜日

今日から食糧運搬だ。今日は丁度お天氣がいいので、お大根を三日分運んでしまった。そのあとで、圖書館のをぢさんのごやつかいで、レコードコンサートがあつた。久しぶりにレコードを聞くのだ。胡桃割人形といふ題だった。聞いてみると、なんだかうかれてしまひさうだ。



胡桃割人形がすんでから、まだ時間があるので、いろいろなのかけていた。音楽はいいなあと思つた。今度は希望レコードコンサートをやるのださうだ。その日が樂しみだ。

一月二十一日 月曜日

今日からいよいよ太寒だ。寒さに負けずにしつかり暮して行かうと思った。これから三十一日まで毎朝食事前には寒稽古をする事になった。今日は第一目。吉波寮は一番だった。先生の後について元氣よくかけ



一月二十二日 火曜日

今日は六日目の授業だ。算数の時間に概数を学んだ。概数は、^{私達}いぜいよく使っておたのだ。こんなものが概数だとは思ってゐなかった。おもしろいものだなと思った。午後、西尾寮から大根運びをした。四日分運んでしまった。一月二十三日 水曜日

しりもちをついて、雪の上には大きな穴をあけてしまふ。あまりしりもちをついたので、腰がいたくてたまらない。先生に注意をうけて、やっとすべれるやうになった。すべれるやうになるとおもしろくてやめるのがいやになった。しまふ。最後は、スキー山で、一人づつすべってやめる事になった。大島さんはとてもお上手だ。私も早くあのやうになりたいなあと考えた。午後、みんなでかるた會をやった。

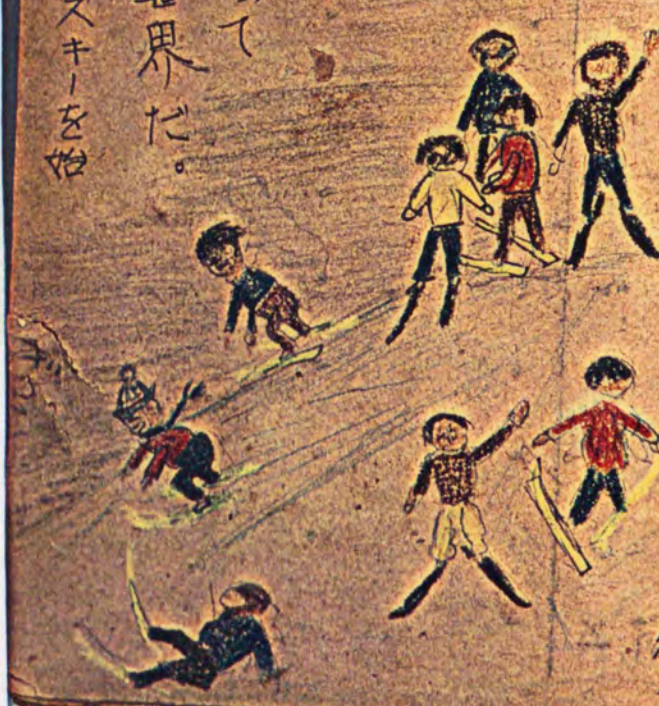
一月二十四日 木曜日

今日は休養日だ。食糧運搬のあとで、すぐ、床屋さんに行った。床屋さんへ行くのもあと二、三回だ。それから寮へ歸って、地理、國史、修身の教科書を出した。この教科書も、もう使へない。私は、もう一回始から見ていた。

午後圖書館の二階でレコードを聞いた。

一月二十九日 金曜日

今日は、久しぶりに立野ヶ原へお辨當を持って、スキーをしに行くのだ。うれしくて、昨日から一生懸命た。すべしあやしいお天気だった。みんな元氣よくスキーをついで行った。立野ヶ原にはまだずるずる雪がふもつてゐて見渡すかぎり銀世界だ。用意をしてから、すぐスキーを始



一月三十日 水曜日

國語の時間梅が香のところをやった。八鍬先生が、梅の木にうぐひすが咲いたリ。とか俳句よりあとになつて無村が出て来た。とかおっしゃるので、みんなどつと笑つた。とてもおもしろい授業だつた。午後は一搬、覽室で、算数のよ習をした。

一月三十一日 木曜日

久しぶりにとてもよいお天気だ。窓からはあーと、日の光がさしこんで、ほんたうに、春のやうな感じがする。午後圖書館の二階の窓をあけはなして、日向ぼつこをしなぐらあみものをしたり日記を書いたりした。

二月一日 金曜日

もう二月。月日の流れの早いのに、おどろくばかり。福光町での生活もあと一月。最後の一月を、しっかりとくらして行かうと思つた。午後お塩を取りに、先生と、三人で行つた。米粟が降つてゐて、目がちらちらする。お塩屋さんには、とても近かつた。二十五キロを三人なので、重かつた。先生が、いっしょにもつて下さつたが、先生は背が高い上に、高下駄をはいていらつしやるので、なかく、つりあはなかつた。

夕食後、宮地先生が、新聞の傳につがあつた。今日は、私達のびっくりする事があつた。それは、バレーボール長官が、終戦後どこかへ姿をお消しになつた。

たので調べたところ、一満洲人として、新潟縣の山奥でまづしい生活をしていらつしやつたのださうだ。ほんたうに信じられない事だ。

二月二日 土曜日

今日は休養日だ。午前中は特別室で自習をした。午後、一時半から三部六年といっしょに、お醤油の配給を取りに行つた。お店の奥へ入つて行くと、大きなおかまから、湯氣がプープー出てゐた。先生にお聞きすると、かうちを作つてゐる所ださうだ。とても廣くて、あちらでも、こちらでも、いろいろな事をしてゐた。こんな所へ来たのは、始めてだ。

二月三日 日曜日

午前中全校運動だ。久しぶりなので、今日は午前中一ぱいする事になった。始めは

いつものやうにかけ足をして、次におなかの運動をした。手も何もつかはないで、起きるのは、とてもむづかしい。皆が笑ふので、おなかの力がぬけて、なかく、おきあがれない。腕たてふせをしたり、ごろごろころがったり、いろいろな事をした。最後にみんなでつな引き大会をした。私達は勝つてばかりゐるので、愉快でたまらなかつた。



二月四日 月曜日

昨日、あまりおなかの運動をしたつて、朝起きる

と、おなかの皮が、とても痛い。
午後七時三十分さんといっしよにお洗濯をした。

二月五日 火曜日

朝起きると、高田先生はもうお出かけにならう
していらっしやった。今日から四日間お家へおかへ
りになるのだ。しつかりお留守居さしよう。

午後図書館で、図書館のそちさんの靴下を編み
であげた。

高田先生のお留守の間、山口先生が来て下さる
事になった。

二月六日 水曜日

朝から雪降りだ。節分も過ぎたといふのに。
朝食後主事先生が東京から歸っていらっしや

て、東京の事をいろいろお話しして下さった。
二月六年で再入學した方は十二人で、みんな
勉強の出来る方ばかりださうだ。その方達に
負けずにしつかり勉強して、又なつかしいお達

と仲よく元氣よく勉強したり運動したり
する日が早く来るといいなあと思った。

二月七日 木曜日

今まで、私達の愛してゐた國語の本を消えな
くてはならなくなった。日本が大東亞戦争
に負けた爲マッカーサー司令部から命令が出
たのだ。本當に戦争に負けるといふ事は

なさけない事だといふまじらながらしみじ
みと感じた。

二月八日 金曜日

今朝から大島さんと田島さんが氣分が悪く
て休んでいらっしやる。明日高田先生が歸っていら
しやるのだから、早くなほるといいなあと思った。

午後図書館の二階で小さい手袋を作った。

二月九日 土曜日

今日は高田先生のお歸りになる日だ。うれし
なあ。

午後、^書図書館にゐると、三須さんが「プレゼント」と
いって、ふろ敷包をおいて行つた。私達は、ふし
ぎに思つて、中を開いて見ると、どうでせう。

なかには、出来たてのおいしさうな、おまん
じゅうが入つてゐた。又しぶりに、とてもおいしい。
高田先生にもさしあげたいなあと思った。

夕食前、手が急にはれて、動かなくなつてしまつた。
二月十日 日曜日

手が悪いので、みんなにお世話ばかりかけ
てゐる。早くなほさなくては。

この後ずっと手が悪くて書けませんでした。

三月一日 月曜日

もう三月になつてしまつた、東京へ歸る日も
真近だ。うれしうな。

午前中は明後日の感謝の會の練習をした。私は開會の言葉をいふ事になつたので、いふ事を考へた。

午後五年以上は、圖書館の二階で、プログラムを書いた。全部書けてから陳列してみんなで見えた。五年の荒木さんの書いた、休憩の繪が一番よかつた。

三月二日 火曜日

午後から明日のよ行演習だ。福光校の方々が見て下さるので、よけいに心がひきしまつて、本當の時のやうだ。舞臺が、とてもすてきなもので、しつかりやらないと、だいなしになつてしまふ。一生懸命やつた。明日は、もつとくしつかりやらう。

三月三日 水曜日

いよいよ今日は、感謝の會だ。午後時からだ。町の方々は、早くから、澤山見に来て下さつたので、とてもうれしかった。この一年間、人も、重い病氣もせず、に、かうして、元氣よく東京へ歸れるといふ事は本當に有がたい事だ。これは、みんな、福光町の方々のおかげだと思つた。今日は、真心をこめて、感謝の會をりつに終らせたいと思つた。

三月四日 木曜日

ひな祭も過ぎて、今日は朝からとてもよいお天氣だ。午前中は記念寫眞を取るのので、みんな校服を着て校門前に集つた。寫眞屋さんがなかなかこないのので、だんだん雲が出て来て、雨が降つて来てしまつたので、一枚しか寫せなかつた。

午後寮へ歸つて荷物の整理をした。もう荷造りの出来、やうにしてしまつた。

三月五日 金曜日

午前中は本田寮へ行つて、教科書の荷造りのお手傳ひをした。

午後は、昨日寫せ

なかつた^肥寫眞を

とつた。小矢部川

で又玉山を付け

いにして、みんな

思ひ出深い所で取

つた。最後に、各寮の方

と御一緒を取つた。夕食は、

寮で食べた。吉波先生を中心にして、

楽しんで時を送つた。

三月六日 土曜日

朝から雨降りだ。今日は、百中荷造だ。阿久澤先生が、吉波寮の荷造りを手傳ひに来て下さつた。くづれないやうに、工夫して、

た。私のは、少ないので、二つにまとまってしまっ
た。午後は髪洗ひをした。もう最後だから
きれいに洗った。夕食後ゆくりとお風呂に
入って寝た。

三月七日 日曜日

いよいよ歸る日になってしまった。あまり月日の
流れが早いのでびっくりしてしまふ。今日汽車
に乗って、東京へ歸るのだとはちっとも思へない。
それに今日は運悪く、朝から雪が降ってゐる。
思ひだして見れば、こちらへ來た時も雨が降っ
てゐた。雨で迎へられて、雪で送られるのだ。
きっと北陸の氣候も、私達とお別れするのだから
いのだらうと思つた。

午後一時五十分、町の方々、學校のお友達に
送られて、福光町を後にした。

三月八日

目がさめた時は、遠くの方がもう明かるくな
てゐた。なつかしい富士山も見えて來た。

もう私達の古郷も遠くはない。

「うへー」知らぬまに、もう上野驛
に着いた。私達の胸は、もうわくわくして
ゐた。學校へ行けば、なつかしいお母校、又

お友達にも合へるのだ。

大塚驛について私はびっくりした。大塚驛の屋
根は、みんな焼けて體ぐみだけになってゐるし、
見渡す限りみんな焼野ヶ原で、これが一年前
までゐた東京だとは思へなかった。

大塚驛から學校まで、歩いて行つた。學校に
は、大勢のお母様方お友達が門の所まで、
出迎へて下さつた。なつかしい校門をくぐつ
た時は本當にうれしかった。それからすぐお
辨當をいただいて家へ歸つた。家には茂子お
姉様と峰子お姉様が待っていていらつした。
「早く平ん話したい事があったが、なつかしい
ばかりで、なにも話せなかった。」

三月九日

目がさめたのは家だった。なんとなく變な氣
がした。朝食は久しぶりに、みんな顔を合せた
みんなが一しよになったのは二年ぶりだ。御飯

第一 一次世界大戦以後の日本経済の発展とその原因

——東京大学経済学部教授 岡田 啓介——

〇二〇

発行 一九八九年八月

編集 日本経済学会

代表 上野 浩一

東京都千代田区千代田4-1-1

〒100-8302

三都のつち

コピー 富士ゼロックス株式会社

東京大学出版会